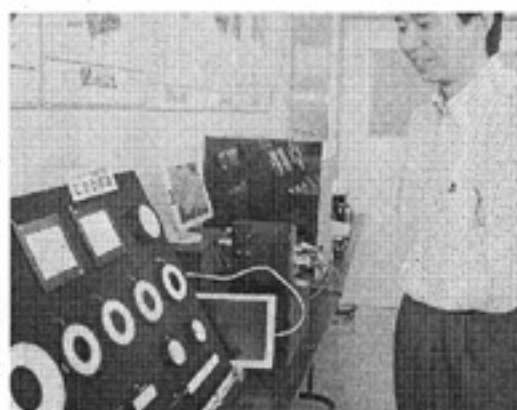


ケーススタディー

産学官連携

▶ 93

アルゴは92年の設立。今井博充社長が三協精機製作所に勤務していた時のロボット開発のノウハウなどを生かし、高度で安価な画像処理装置



画像処理には照明装置が重要な役割を果たす(写真はLEDを用いた装置)

アルゴ

は00年、自社LED(発光ダイオード)照明装置を開発した。例えば、この夏発売した3次元検査装置は高解像度カメラ3台を使い、電子部品などの50μm程度の突起について、大きさや位置をオンラインで計測検査するためのものだ。

正確な画像処理を行うには対象物に当てる照明が重要な力キを握る。明るく均一な照明が求められる。同社は00年、自社LED(発光ダイオード)照明装置を開発した。例えば、この夏発売した3次元検査装置は高解像度カメラ3台を使い、電子部品などの50μm程度の突起について、大きさや位置をオンラインで計測検査するためのものだ。

有機ELで均一な照明

今年度内に試作機

信州大と共同研究

始めていた。

エクトとして採択され、有機EL応用製品開発も大きなテーマの一つとなった。同社はさっそくこれに参画、02年夏以降、信州大学繊維学部と密接な関係を楽しんでいる。

「面が発光する光源として有機ELは画像処理装置に有効。谷口彬雄信州大にシイズが研究には注目しており、接点を持ちたいと思っていた。ただ、共同開発を申し入れるには敷居が高いという気持ちもあった」

同社側が有機ELの輝度、寿命、応答性といった、実用化に必要なスペックを提案するのをはじめ、共同研究が進められている。プロジェクト内では、張り合わせ手法など、より安価な製造手法も試行錯誤されている。同社は04年度中に実用化に向けた試作機を稼働する。06年度までのプロジェクト

エクトは佳境に入ってきたところだ。(諏訪支局長・名取貴) 所在地 長野県南箕輪村、0265・76・7845 社長 今井博充氏 主な事業 画像処理装置の開発・製造および販売、検査計測システムの設計・製造および販売など

太いパイプを実感

今井 博充社長に聞く



敷居が高いという気持ちもあった...と今井さん

ニーズ投げかけ 研究成果の返球

「そこでクラスター立ち上げに参画した。『最初の企業説明会には、多くの企業が押し寄せていた。申請しても協力してくれ、社員12人の中小企業にとっても大変に助かっている。当初は大学との共同開発は難しいと考えていたが、今では太いパイプができた実感している」